

## 寄贈資料紹介

平成22年度、本学校友である遠山慶一氏から、貴重な品々の寄贈を受けたので、紹介したい。旗指物1点、火事装束胸あて1点、陣羽織1点、羽織4点、柳行李1点、袴上下計2点、袴2点、煙草盆一式、矢立と印籠各1点、弓術秘伝書2葉に、朱漆塗り重箱1組や栗おこし木箱1点の合計19点で、すべて遠山家に伝来したものである。

旗指物には、赤地に金文字で「遠山ちん二ろ（じんじろう、甚二郎の意）」と記されている。遠山甚二郎は、徳川側の大名井伊直正に仕えて、元和元（1615）年5月、豊臣氏が滅んだ大坂夏の陣で没した。旗指物は、戦国期の大名の軍勢が、敵味方を見分け、また武功を記録するための目印旗であり、井伊家は「赤備え」の軍勢として知られ、この赤い旗指物は、戦国期武将の装備品として象徴的な品物である。



旗指物

陣羽織などの衣装は、四国松山藩に仕えた遠山新八が着用した品々である。火事装束胸あては、武家の火消し隊が消火作業に出陣した際に着用された耐火防護服で、丸に横三本井桁の遠山家の家紋を付ける。陣羽織は、柿渋染の麻生地で、背中に遠山家の家紋を付け、武運長久を祈る南無妙法蓮華経などを墨書する。合戦働きのための実用的な陣羽織で、貴重な資料である。



火事装束 胸あて



陣羽織

柳行李に入った桔梗紋黒羽織を含む羽織4点には、麻の暑期向きのもの、裏地のある寒冷期向きのものがある。袴上下は、江戸時代の武家が登城するなど出仕する際に着用した正装である。萌黄色の木綿生地に遠山家の家紋をそれぞれ配している。



羽織



羽織を収めた柳行李



袴上下



弓術秘伝書



煙草盆 印籠 矢立



朱漆塗り重箱1組、栗おこし木箱

弓術秘伝書は、武家が武術を伝えるための指南書で、精緻な解説が認められる。印籠や矢立は、屋外での必携品で、煙草盆は、屋内での喫煙用具である。朱漆塗り重箱は、4段の小ぶりなもので普段使いされたと思われる。栗おこし木箱は、上方から栗おこしを入れて四国松山まで運ばれたもので、流通の実態が見てとれる。

博物館では、遠山慶一氏から寄贈された貴重な品々を、広く展示公開し、教育研究のため活用していきたいと考えている。(山口)